

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内研究の取り組みの結果、対話やグループなどの話し合い活動に意欲的に取り組む児童が増えてきた。
- ・読書月間だけでなく、朝読書などの時間を通して読書をする習慣が身に付いてきている。
- ・音読に取り組む習慣が身に付いている。

(2) 課題

- ・言語についての知識理解技能について、各学年に課題がある。
- ・対話や、グループなどの話し合い活動を機能的に行うことが難しかった。
- ・書く活動に苦手意識をもっている児童が多い。その前段階の、考えをまとめたり読み取ったりする力も弱い面が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現 ▼ 主体的に取り組む態度 ▼		
第5学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現 ▼ 主体的に取り組む態度 ▼	(第4学年時) 知識・技能▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼	
第6学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現 ▼ 主体的に取り組む態度 ▼	(第5学年時) 知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	(第4学年時) 関心意欲態度△ 話す・聞く能力△ 書く能力▼ 読む能力△ 言語についての知識理解技能▽

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値には少し達していないが、3年時の配当漢字の理解が十分である。 ・概ね目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが得意な児童と、苦手な児童に分かれている。特に、指定された文章の長さで書くことに慣れていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未記入の児童が数多くみられる。学習に取り組む意欲の面に課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示語についての理解が不十分である。 ・ 漢字辞典の使い方を理解が弱い。 ・ 漢字を読むことに関しては不十分である。 ・ 修飾語についての理解が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くこと全般に課題がある。特に、指定された長さで書くことの数値が低い。書く前段階の、中心となる語や文を見付ける力も不足していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に6年生では、文章を書く問題への意欲が高くはない。自分の考えを表現しようという意欲が弱い傾向が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短文を書かせる機会を多く取り入れ、①平仮名と片仮名、②拗音と促音、③「てにをは」④主語述語の4つを正しく使うよう繰り返し指導する。 ・ はじめ、中、終わりの文章の構成を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えに気付き、対話を通して自分の考えを友達に伝えさせる。 ・ はじめに結論を述べさせ、理由をしっかりと言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 努力しようとする意欲を高めるために、文字や言葉の学習に丁寧に取り組む児童の姿勢を褒める。 ・ 友達の考えや作品から自分なりに学ぼうとする児童を褒め、他者から学ぶ姿勢を価値付ける。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字は書く指導だけでなく、漢字を声に出して読ませる指導を徹底する。また、繰り返し漢字の小テストを行い、漢字や言語の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くことに楽しみを見出せるよう、導入の工夫をする。 ・ 段落の意味や使い方を繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に感想文やの作文等の指導では、自信をもって書けるよう、文章構成の基本を教える。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に辞書を引く場面を学習の中で数多く設け、語彙力を豊富にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の中で大切な語句や文に線を引かせて大事な部分を意識することを教えていく。 ・ タブレットなどを用い、友達の意見として追記できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身で文章をしっかりと書けるようになれば自信が付き、意欲的に活動するようになるので、文章の型を示していく。

令和4年度 **社会科** 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地図帳や資料集などの地図やグラフを見て考える機会を増やし、じっくり考える時間を確保した結果、社会の問題点を見出し、自分事として捉える態度が高まった。

(2) 課題

- ・地図記号や方位、その他の用語の定着につまずきが見られる。
- ・複数の資料を結び付けて共通項を見付けたり、判断したりする問題につまずきが見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼		
第5学年	知識・技能 △ 思考・判断 △ 主体的な態度△	(第4学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	
第6学年	知識・技能 △ 思考・判断 ▼ 主体的な態度△	(第5学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第4学年時) 関心意欲態度▼ 思考・判断・表現▼ 技能 ▼ 知識・理解 ▼

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・安全を守る働きや特徴などの知識・理解が低い。 ・地図記号や市の様子の移り変わりについての問題は全国正答率より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を自分の言葉でまとめるなど、文章で表現する力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフなどの資料の読み取りができるようになって、選択肢の意味を考えながら正しい選択肢を選ぶようになる態度が高まった。 ・無回答が少ない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 学年では、地図や都道府県について目標値を十分に上回っており、学習したことが身に付いている。 ・ 6 学年では、工業（自動車、工業地域や貿易）の用語や知識について学習したことの定着が図れていない。国土や情報、自然環境については概ね理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 学年では、農業について資料からの読み取る力が低いため、資料から考えられる内容との結び付きを考える力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の資料や会話文を読み取って課題を解決する記述式の問題は正答率が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な機会に地図記号や四方位について触れることで、社会科に関する基礎知識の定着を図る。 ・ グラフやイラスト等の具体資料では、たくさんの情報を引き出し全員で共有する場の設定をする。 ・ 資料の読み取りでは、最も高い低いだけでなく、およその数値まで読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人一人が学習問題を見出せるように導入の工夫（興味を引く効果的な教材の選定・資料の提示の順番・タイミング・大きさ）をし、キーワードを見付けさせることで、文章で表現できるよう指導をする。 ・ 普段の学習から、学習のまとめや授業の感想を書かせる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習から、学習の振り返りを行い、振り返る際の視点を定める。 ・ 様々な社会事例を共有し、学習した内容を生活の中でも確認したり生かしたりすることで学習事項を自分事として捉えるようにする等、意欲を高める工夫をする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な機会に地図帳を使い、都道府県に触れることができるようにして、都道府県についての知識の確実な定着を図る。 ・ 日本の地形と気候の特色をきちんと結び付けて学習させる。 ・ 重要語句について学習の中でノートに書かせるなど知識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常にグラフや表が出てきた時に、表しているものや数値をしっかりと読み取らせ、どんなことが分かるか確認する。 ・ 単元の最初や最後には、経験や既習事項をもとにして、社会的事象について予想したり考察したりする機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習から、資料から分かることや自分の考えを書かせる活動を取り入れる。授業の最後にはまとめを書かせる活動を行い、自分の考えを表現できるようにする。

令和4年度 **算数科** 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習したことを宿題やタブレットで反復練習させたことで、計算の定着が図れた。
- ・児童同士でノートを見る活動を取り入れ、考えを深めたり広げたりすることができた。

(2) 課題

- ・ノートを見合うことはできたが、感染症対策のため活動に制限があり、児童同士での対話が十分に行えなかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	知識・技能 △ 思考・判断 △ 主体的な態度△		
第5学年	知識・技能 ▼ 思考・判断 △ 主体的な態度▼	(第4学年時) 知識・技能 △ 思考・判断 △ 主体的な態度△	
第6学年	知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第5学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第4学年時) 関心意欲態度▼ 数学的思考 ▼ 技能 ▼ 知識・理解 ▼

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2けた÷1けた=1けた（あまりあり）の計算ができていない。 ・ 同分母の真分数－真分数＝真分数の計算方法の理解が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用問題での論述問題の正答率が、目標値より、大幅に上回っていた。 ・ 文章問題を読み、場面を捉えて、□を用いて式に表すということが、十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にあるものの長さを推察して適切な単位を使う問題、身近にあるものの重さを推察する問題が目標値を下回っていた。測定における量感が十分に備わっていない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数や分数の大小の読み取りが十分ではない。数直線なども目盛りを間違えて読んでしまい、大小関係も捉えられていない。 ・ 基本的な既習事項を忘れてしまっているため、問題が解けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倍の文章問題を解くための除法の式を選ぶということはできているが、2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかと捉えることができていない。 ・ 小数倍の文章問題を解くために、どんな式を立てるか分からず立式できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記述式の無回答が減り、書こうとする意欲の向上が見られた。 ・ 問題を粘り強く解こうという意欲が前年度より高まってきているが、正答に結び付いていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ たし算ひき算かけ算の基礎計算力を維持するために、東っ子タイムや補習の時間に反復練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを活用して、具体物、図や絵などの教材教具を工夫し、児童が計算の意味を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書やタブレット等を活用して、視覚情報を多く見せ、導入時に児童が興味を高め、主体的に学習に取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算わり算の基礎計算力を高めるために、宿題等で反復練習させる。 ・ 復習の時間を設けて、意味を児童に説明させながら確認する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が自分の考えを、ペアやグループに説明する場面を多く設けて、説明することに慣れさせて、苦手意識を減らしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数の授業だけではなく、生活の中で、量感を高められるように身近な単位や、「どれくらい？」と声をかけ、量感を表すようにしていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の始めに四則計算の適用問題を解く時間を設定し、学習したことを反復させることによって理解の深まりと定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図的に数直線に触れる場面を増やし、図の描き方、読み方の理解を深め、便利さに気付き、主体的に数直線を用いようとする態度を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が簡単と感じられる記述式の問題を解く場を多く設け、どのように記述式問題を解けばよいのかの理解を深め、苦手意識を減らし自信を付けさせていく。

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実際に動植物を間近で見る経験やじっくり観察する時間を確保した結果、高学年では生命・地球分野の学習における観察の技能や思考の力が伸びたものがある。

(2) 課題

- ・自然事象や実験への関心はあるものの、基本的な知識や理解に結び付いていない。
- ・理科で学習した用語や実験器具の名前、その使い方の理解につまずきが見られる。
- ・説明したり自分の考えを表現しようとしたりするといった意欲に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度 △		
第5学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度 ▼	知識・技能 △思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度 △ (第4学年時)	
第6学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度 ▼	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度 ▼ (第5学年時)	関心意欲態度▼ 思考・判断・表現▼ 技能 ▼ 知識・理解 ▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり、上回ったりしているものもある。 ・虫眼鏡で日光を集められること、1つの輪のようになっている電気の通り道のことを「回路」とよぶこと、磁石は直に触れなくても、鉄を引き付ける性質があることの理解が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり、上回ったりしているものもある。 ・虫眼鏡で日光を集めたとき、日光が集まっている部分が最も温かくなること、磁石の性質を理解し、実験の結果から磁石の極を判断できることの理解が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり、上回ったりしているものもある。 ・問題を読み取る力や集中力に課題が多い。問題の意図自体が理解できず無回答が目立つ。特に、記述問題でその傾向が強く見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり到達していたりするものもある。 ・5学年では、回路の流れる電流の向きなどの電気の働きについての理解が不十分である。 ・台風が近付いた時の天候の変化や日本付近を通過する台風の進路の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり到達していたりするものもある。 ・日常事象における条件に着目して、知識を関係付けながら問題を解決することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近かったり、上回ったりしているものもある。 ・説明したり自分の考えを表現しようとしたりする意欲に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・教師が用語や実験結果を補いながら、知識を一般化させて定着させるため、まとめの時間を十分に設けるようにする。 ・他教科の学習でも、用語や語句に触れるよう教師が心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の予想は個人→グループの順で話し合い、予想を基にした実験をし、予想と結果を比べながら進める。 ・まとめの段階では、様々な日常現象を解決する活動に取り組み、知識の定着を図ると共に活用する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的を児童に問いかける等、何を解決するために活動しているのか、問題に立ち返らせて意図を確認する指導を繰り返す。 ・考察等での記述の前には友達と考えを伝え合う時間を設け、自信をもたせる。また、記述が苦手な児童には、ポイントとなるキーワードを与えて、書きやすいよう支援する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを、テスト前などにまとめて書かせたり、適用問題などを実施したりして、インプットした知識をアウトプットさせて理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことのレポート作成等をし、理科的な事象を日常生活と結び付けていく。左記のように知識の定着を図り、それを使えるように自信をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことに自信がもてるように、反復して問題を解いたり、単元のまとめで学習したことを再確認したりしていく。 ・まとめの文章を書くのが苦手な児童には、ポイントとなるキーワードを与えて、書きやすいよう支援する。

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・発達段階に応じて、音符や楽譜などの基礎的・基本的な知識を習得させることができた。

・鑑賞の学習では、曲想と要素を分けて聴き取ることができた。

(2) 課題

・曲に対する思いを、演奏に表すことが難しい。

・歌唱の学習に対して意欲はあるが、楽譜を見てどのように歌うか思いをもったり、それを歌で表現したりする力が弱い。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現を楽しんで行き、リズム感を身に付けることができた。 ・鍵盤ハーモニカの基礎的な奏法を全員に定着させることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興表現やリズムづくりでは、自分の思いや意図をもって表現することができた。 ・曲を聴いて感じたことを、友達と伝え合ったり、それを基に考えを広げたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現では、児童の実態に合った選曲(教材選び)を行うことで、拍感が身に付き、楽しく学習に取り組むことができた。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な楽譜の読み方や、リズム感を身に付けることができた。 ・リコーダーの新しい音をきれいな音色で出す方法や、サミング等の奏法の定着を図ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の学習では、強弱や音色の違いに気付き、タブレットにまとめることができた。 ・歌唱の学習では、曲に対する思いをもったり、演奏に表したりすることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい曲や新しい奏法への意欲が高く、主体的に取り組む姿が見られた。 ・友達と話し合いながら、よりよい音楽をつくろうとすすんで協力し合うことが難しい。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・合奏の学習では、パートの役割を考え、音量を変えたり、タイミングを揃えたりしながら演奏することができた。 ・歌唱の学習では、発声方法を意識して歌うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの曲を聴いて曲想と要素を聴き取り、タブレットにまとめることができた。 ・聴き取った曲想と要素を結び付け、言葉で言い表すことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、主体的に音楽づくりの学習に取り組むことができた。 ・課題のある部分の練習を繰り返すなど、こだわりをもって学習に取り組む児童が少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカをはじめとする楽器の学習では、児童の特性や発達段階を踏まえた指導法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや感じたことをペアやグループで伝え合う学習の機会を多く取り入れる。頻繁に取り入れる。 ・鑑賞の学習では、個人の考えをペアやグループ、全体で発表させ、多様な考えがあることを理解させる。その上で、自分の意見に取り入れるなど考えを広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽に関わる児童を育てるために、常時活動では、①リズム遊び②歌唱③身体表現を取り入れる。 ・歌唱や器楽の基礎基本的な奏法を楽しく学べる教材を精選する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの学習では、運指表を用いたり、正しい音色を聴く機会を増やしたりするなど、繰り返し真似をさせながら定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で行う「呼吸体操」を通して息の使い方を指導したり、口や体の動きを真似させたりするなど、曲の感じを表すために必要な表現方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの機会を増やす。 ・互いの意見を認め合うことができるよう、教師が積極的に良い意見を価値付けていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・歌唱の学習では、常時活動で行う「呼吸体操」を通して日頃から息の使い方を指導する。・リコーダーの学習では、運指表を用いたり、正しい音色を聴く機会を増やしたりするなど、繰り返し真似をさせながら定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・曲想と要素を結び付けて考えることができるようにする。 例として、話型を使うこと（「この曲は～な感じだと思います。なぜなら～です。」）、日頃から「強弱」や「速度」など要素を言葉にする機会を多く取り入れるなどが考えられる。	<ul style="list-style-type: none">・CD や動画を使ってプロの音楽家が演奏している「良い音楽」に触れる機会を頻繁に取り入れる。その上で、より質の高い音楽活動を目指すために、何が必要なのかを考えさせ、その後の練習につなげる。

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・クレパスやのり、金槌、糸鋸などの使い方を習得させることができた。
- ・友達の作品から、よさや工夫したところを見付け、伝え合うことができた。

(2) 課題

- ・見たり体験したりした経験が乏しく、発想や主題をもつことに課題がある児童がいる。
- ・表現することに自信が無く、苦手意識をもっている児童がいる。
- ・一度学習した道具の使い方、技法などまだ十分に身に付いていないことがある。

2 授業の分析

1 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・クレパスの塗り方を工夫し、混色やぼかしなどを適切に使い分けられることができる。 ・はさみで、円を切ったり、切りたい形に合わせて切ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着色では、好きな色から想像を膨らませて色を組み合わせたり、イメージに合わせて色を選び表現したりすることができた。 ・自分で新しいことや好きな物等を想像することが、課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに自信が無い児童が少しいる。 ・作業や片付けの合間に集中力が切れてしまう児童がいる。

2 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・水を生かして絵の具で濃淡を表現したり、新しい色を作ったりするなど、水彩絵の具の扱いに慣れることができた。 ・カラーペンを使う際、カラーペンの効果を理解し、他の描画材と使い分けられることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を工夫しようとせず、すぐに終わりにしてしまおうとする児童が少しいる。 ・鑑賞の際、友達の作品からよさを感じ取り、感じたことを発表したり、友達に伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマから想像を膨らませ、意欲的にすすんで作品製作をすることができた。

3 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土の特徴を理解し、細かなものも、丁寧に表現することができる。 ・糸鋸の使い方は理解しているが、実際の刃の付 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたい思いから、新たな材料を、提案するなど、材料から想像を膨らませることができる。 ・自分の中の作りたいイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、主体的に図工の作品づくりの学習に取り組むことができた。

け替え方が身に付いていない。	イメージはあるが、思い通りに表現することが難しい児童が少しいる。	
----------------	----------------------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 線の上を切る、自由な形を切るといった切り方を何度も繰り返して使う経験を増やす。 手や体全体の感覚を働かせながら、活動ができる題材を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものや、気持ち、考えていることを教師が聞き出し、一度言葉に出させることでイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品や活動を積極的に褒め、表現活動を楽しめるように声掛けをし、自信につなげる。 作業の合間で集中力が切れてしまう児童には、細かく注意をし、続きを行いたいと思わせる前向きな声掛けをする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具に液体粘土を混ぜたり、パチックの技法を活用したりするなど、表現の幅が広がる題材を取り入れる。 カラーペンの使い方、効果、種類の違いなどをしっかり説明し、使い分けができるよう指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫できそうな点を、レベルアップ課題として出すなど、アドバイスをする。 友達の作品から感じたことを発表する際、より具体的なポイントを説明することができるよう指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 想像したことを伝え合う機会を増やすことで、友達の考えからも新たな発見や、想像の広がりができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 粘土にも、紙粘土、油粘土、土粘土など種類があり、材料の違いや特徴に合わせて作る形を工夫できるように指導をする。 糸鋸の刃の付け替えを全員が1回は体験できる機会をつくる。また、掲示資料を作成し、振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一度アイデアスケッチをさせることで、イメージをまとめることができるようにする。 作りたいものをイメージ通りに表現できない児童には、教師がアイデアスケッチを確認し、材料やポイントのアドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と作品について話をしたり、見合ったりする時間を毎時間取り入れることで、お互いによさを認め合うと同時に、作品に生かすことができるようにする。

令和4年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一人調理や授業入れ替え制等工夫して調理実習を行い、調理技能について学ばせることができた。

(2) 課題

- ・細かい裁縫技能について十分な習得が得られていない。
- ・調理実習はできるが、一人調理や入れ替え制などのため授業時数が多くかかってしまう。
- ・継続的に指導しないと、指導内容が定着しない。
- ・知識で学んだことが、生活の中で十分に実践できていない。

2 授業の課題分析

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で調理実習に多くの時間がかかるようになった。より安全で効率的にできる方法を考えることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の問題を課題として捉えることはできるが、それを生活の中で全て実践するというところには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に臨む意欲は大変高い児童が多く、楽しく取り組んでいるので大きな課題はない。

3 授業改善のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫技能については繰り返し練習させることと作品づくりを通して実践させることによって定着を図るようにする。 ・調理技能については、個別での実習や少人数グループでの実習を行うことによってコロナ禍でもなるべく実施できるようにして、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣・食・住に関して日常の食事の仕方や衣服の選び方など、普段の生活と合わせて考えていけるように扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや身に付けた技能を、作品づくりや調理実習、普段の生活の中で取り組ませて活用させるなど、実際の生活の中で実践できるようにし、さらなる意欲の向上を図るようにする。

令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どんな活動も意欲的に取り組んだ。
- ・意欲的に植物を育てたり、虫を見付けたりする児童が多く見られた。
- ・活動の中で、気付いたことを絵や言葉で表現できた。

(2) 課題

- ・ねらいに沿った活動を行っているが、表現力や思考力が十分に育っていない。
- ・気づきを自分の言葉で表現できるが、自分の思いを文章化できない児童がいる。
- ・活動の中で、自分たちと生活との関わりについて十分な気づきに至っていない。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・活動や体験を自分なりにまとめることに苦手意識をもっている児童がいる。	・活動や体験を通して、気付いたことや楽しかったこと等を自分の言葉で表現できない児童がいる。	・学習に主体的に参加できていない児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことのまとめ方を見る、さわる、におうなどを使うことを教師が提示し、自分なりにまとめることができるようにする。 ・活動の中から出てきたものを上手く教師がまとめ、児童の知識としていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく表現するために、観点（大きさ、高さ、形、色、数、手触り等）を示し、具体的な表現方法を指導する。 ・児童が学習カードで表し切れない部分をICT機器等で補い、文章で表せない気づきも映像で表すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近なものを題材にした環境づくりをし、興味・関心がもてるようにしてしてから、授業を始める。 ・気付いたことを基に考えたり、生活に生かしたりできるように、見付ける、比べる、例える等、多様な学習活動を行う。

令和4年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・コロナ禍でも、感染症対策をしたうえで運動する機会を増やすことができた。

(2) 課題

- ・長期にわたるコロナ禍の為、運動の機会が減り体力の低下が見られる。
- ・運動のコツやポイントをつかませるような指導を展開しているが、技能の定着にはまだ課題が見られる。
- ・様々な基本的な体の動きを身に付けることに課題が見られる。

2 授業の課題分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・スキップや短縄跳び等の基本的な動き、運動が苦手な児童もいる。 ・それぞれの運動能力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのめあてをもって運動に取り組んでいる児童もいる。 ・自分で目標を設定できない児童もいる。上達できない時、理由を考える前に諦めてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が向上心を持ち、意欲的に運動に取り組んでいる。 ・苦手なことには取り組もうとしない児童もいる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の手先や体を操作する運動に関する能力差が大きい。(バランス感覚も) ・投げたり、回ったりする動きのポイントを理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人技能でも団体技能でも、常に自己のめあてをもって取り組めていない。 ・自分に合った練習の場を正しく選ぶことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2度取り組んでみて、できないとすぐに苦手意識をもち、チャレンジしようとする意欲をなくしてしまう児童がいる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用具を操作する運動についての技能が十分に身に付いてない。 ・それぞれの運動の技能の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握するために足りない部分や必要な練習などを思考する力が十分に身に付いてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことにもチャレンジしようとする意欲はある。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうために必要な基本的な体の動きが身に付いておらず、体育に意欲的に取り組めない児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に気を付けながら、グループでの活動の場を設定して、関わりを増やす。 ・準備運動と共に、単元に合わせた補助運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入、終末時に、学習のめあてと自分自身のめあてについて確認する。 ・学習中、どうやったら運動が上達するかについて考えさせ、学級全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が練習の場を考えられるような単元計画を行う。 ・教師が運動の苦手な児童の課題を把握して、個々に必要な練習方法等を示す。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・投げる・回る動きのポイントを指導したり、正しい補助をしたりしながら、技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって取り組ませることができるよう、授業のまとめで、できたことやできなかったことを振り返らせる。また、自分のめあてに合った場の選択ができるように、ペア学習やトリオ学習で取り組み、友達同士で教え合えるようにする。 ・友達の良いところを学ぶための見方や方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことにチャレンジしている児童をたくさん褒め、意欲を高める。 ・場の工夫をし、やってみようと思わせる工夫をする。 ・ゲーム単元で勝敗を決めることを目的にせず、1時間ごとに個人のめあてをもって取り組ませ、児童に成長や伸びを実感させる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動を通して、ボール操作など児童が用具を使う機会を多く設け、技能の定着を図る。 ・技能に関する掲示物を作成し、技能ポイントについての理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなどを活用し自分の課題を考える時間を設ける。 ・ペア学習やグループ学習を活用してお互いに技に取り組んでいる姿を見合い、アドバイスし合える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な児童でも取り組んでみようと思う平易な場の設定を行い、段階的に技に挑戦できるように工夫する。

令和4年度 **英語科** 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 授業の分析

5, 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ A L T の発音を聞いて、同じように発音しようとしている。 ・ 英語の単語の意味を覚えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で発表するときには、場面に合わせた外国語の文章を作ろうとしている。 ・ 単語や表現方法が分からなくて文章で表現できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に主体的に参加できていない児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

5, 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 罫線（4線）にアルファベット3, 4文字で構成される短い語句を正しく書き写す練習などを行い、アルファベットの大文字、小文字を書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを使用することで、児童が分からない表現方法などをいつでも調べられるようにする。担任も英語辞典や自動翻訳機などを携帯するなど児童の質問に素早く答えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームなど児童が興味関心をもって取り組める内容を通じて基礎・基本の定着を図る。